

博物館機能をもつ町立観光施設による 町外県立高校図書館展示の意義と実践

箱根ジオミュージアム 山川 隆良・小笹 直人
神奈川県立寒川高等学校図書館 鈴木 聖美

1. はじめに

箱根町立箱根ジオミュージアムは、箱根火山の噴気地帯である大涌谷に位置する、博物館機能を備えた町立の観光施設である。法令上は博物館法に基づく博物館ではないものの、資料の収集・保管、展示、調査研究、教育普及といった博物館の基本的機能（博物館法第2条）を担っている。また、所管は観光課であり、大涌谷という国際観光地において、観光の満足度向上にも資することを目的としている。

近年、観光立国化と文化政策の中で、博物館は地域に根ざした観光と文化を結び付ける場となることを求められ、展示・教育・研究を観光の来訪体験や地域振興にどう結び付けるかが課題として整理されてきた（佐藤 2020）。さらに、2022年の博物館法改正（2023年施行）では第3条に文化観光が明記され、館の基幹機能を維持しつつ地域活力の向上に資する役割が制度的に求められるようになった（菅根 2023）。本稿は、博物館が観光的役割を強めるだけでなく、観光施設が博物館機能を計画的に充実させる方向から、今後の博物館・観光連携の在り方を考察する。

とりわけ、本稿では町立観光施設が町外の学校と連携する意義に焦点を当て、神奈川県立高校図書館との連携展示の事例を素材として、その意義と実践を検討する。

2. 事例紹介

2-1. 高校図書館連携展示の経緯と概要

2020年に発生・拡大した新型コロナウイルス感染症（COVID-19、以下「感染症」）により、多くの施設で入館者数と活動機会が減少した。箱根ジオミュージアムにおいても、緊急事態宣言の期間中は社会情勢を踏まえた閉館措置等を講じた。

こうした状況下でも実施可能な教育普及事業として、箱根ジオミュージアムが標本・パネル等を提供し、学校側（学校司書・教員・生徒）と協働

表1 2021年から現在に至るまでの学校図書館展示
開催校一覧

展示開始年	学校名
2021年	県立湘南高校、県立鎌倉高校、県立厚木清南高校
2022年	県立大磯高校、県立厚木東高校、県立湘南高校、県立鎌倉高校、都立三鷹中等教育学校
2023年	県立厚木商業高校、県立平塚盲学校、県立三浦初声高校、都立三鷹中等教育学校、小田原市立城北中学校
2024年	県立平塚盲学校
2025年	県立寒川高校、県立磯子工業高校

して、県立高校図書館内で関連図書の紹介と合わせて展示する取組みを行った。

展示は箱根火山に関する内容を基本としつつ、各校の地質・地形の紹介と、当該地域と箱根火山の関係性を示す構成とした。内容は各校の教員と協議のうえ、学校ごとに調整し、実施を重ねるなかで教員間のネットワークを通じて広がり、神奈川県内各地の県立高校図書館へ展開した（表1）。

2-2. 2025年度の高校図書館連携展示の実施内容

2025年度は、県立高校図書館連携展示を「学科・地域理解を踏まえたテーマ設計」と「生徒参画による制作体制」の二点で強化し、磯子工業高等学校と寒川高等学校で実施した。

磯子工業高等学校では、箱根火山を軸に自然環境がもたらす資源（鉱物・エネルギー）に焦点を当て、同校の4学科（機械・電気・化学・建設）と関連づけた展示を構成した（図1）。寒川高等学校では、寒川町から望む西方の山々および寒川町の地形・地質を解説するパネル展示を実施し、関連する標本・図書も併せて配置した（図2）。とくに箱根火山と寒川町の地形・地質の関連性を強調した。

両校で来場者へアンケートを実施したところ、



図1 高校図書館での展示の様子（磯子工業高校）.

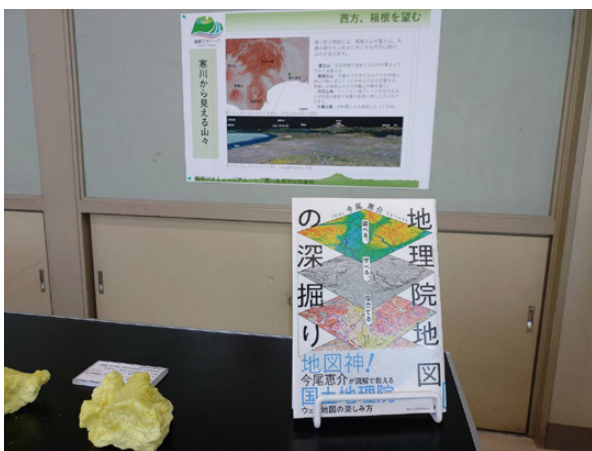


図2 標本、図書、解説パネルを合わせた展示(寒川高校).

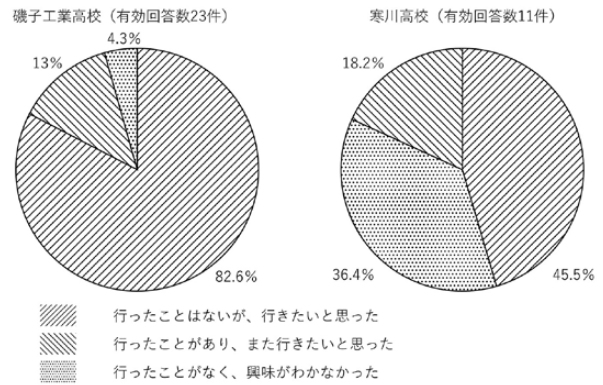


図3 箱根ジオミュージアムへの来館意向のアンケート結果.

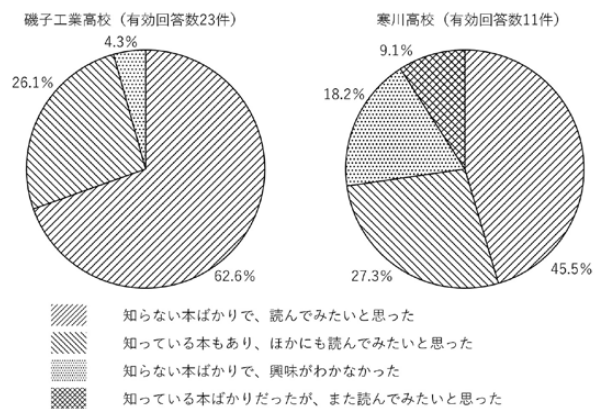


図4 展示図書への関心のアンケート結果.

箱根の来訪歴については磯子工業高校で8割超、寒川高校で過半数が来訪経験ありとの回答であった。また箱根ジオミュージアムへの来館意向について、展示を通じて高まったと回答した割合は、磯子工業高校で8割超、寒川高校で6割超であった(図3)。さらに展示関連図書への関心については、磯子工業高校で9割超、寒川高校で8割超が「関心がある」旨の回答であった(図4)。観光誘客・教育普及・学校図書館の利活用促進の各面で効果が見込まれる結果となった。

2-3. 実施校図書館司書の所見

本節では、連携先校の学校司書から得た所見をもとに、箱根ジオミュージアムの立場から企画意図・実施状況・反応を整理する。

2020年の感染症拡大下、箱根ジオミュージアムから神奈川県立湘南高等学校へ、校内図書館でのジオパーク展示の実施について打診した。登校制限や長時間滞在の自粛が続く状況を踏まえ、図書

館で博物館様式の展示を行うことが、校内の閉塞感緩和と学習環境の活性化に資するとの見立てを共有した。

湘南高等学校図書館の吹抜けを備える二層構成の空間に、箱根ジオミュージアムが提供した触察可能な標本および写真パネルを「山」を主題として配置した。結果として、「学校図書館でこの規模の展示が可能とは思わなかった」「面白い」「触ってよいのか」といった肯定的反応が多く得られた。他方で「なぜ図書館で展示を行うのか」という問いも寄せられた。これに対し、図書館における実物資料の提示が知的好奇心を喚起し、併設する関連図書を通じて探究学習へ誘導する教育的意義を、学校司書から説明した。

また、読書習慣の乏しい生徒の来館誘発、いつでも誰でも利用が可能という学校図書館の特性の発揮といった効果も見られたと報告された。さらに、将来の現地見学時の体験が充実するという効果も期待されたとの所見を得た。翌年度には主題

を「海」へ更新し、地域性を反映した構成を試みた。

この実践を端緒として、学校間ネットワークを通じた情報共有を行い、他校への展開を進めた。

波及先の一つである寒川高等学校では、2025年の文化祭に合わせて図書委員会・科学部と協働し、「地形・地質から探るわたしたちのまち」を実施した。大判の地形図・断面図に対応づけて岩石標本を配置し、関連図書、生徒作成のPOP、科学部の実験ポスターを併設した。期間中は学芸員が常駐して解説を行い、硫黄標本の嗅覚体験、軽石の触感への驚き、火打石への興味など、実物資料の提示が理解と関心の深化に寄与することを確認した。展示後は規模を縮小して図書館内で継続掲示し、未観覧者への機会提供と学校ネットワークを通じたさらなる情報共有につなげている。

3. 町立観光施設による町外での普及活動の意義の考察

3-1. ML連携を核とした博物館的機能の拡充

ML (Museum-Library) 連携の潮流の中で、博物館と図書館はデジタルアーカイブのみならず、展示・教育普及を通じた横断的な学習支援とアウトリーチにおいて連携がなされてきた(金 2009)。学校教育領域では、学校図書館における博物館との協働が学習指導要領および学校図書館ガイドラインで求められており、地域の博物館等との密接な連携が推奨されている(文部科学省 2017)。研究・実践報告では、学校司書・学芸員・教員の三者協働による学習モデルが蓄積されつつあり、例えば学校司書と学芸員が協働して博物館見学の事前授業を設計した実践報告では、来館時の学習目標の明確化と事後の探究深化に有効であったとされている(井上ほか 2025)。

箱根ジオミュージアムと県立学校図書館の連携展示では、学校図書館において学芸員・学校司書・学生が協働して「実物標本×解説パネル×関連図書」の展示制作を行った。これは、学生に横断的な学習を支援する場を提供したML連携の事例として位置づけることができる。とくに、図書委員会や部活動が制作・解説の一部を担う体制は、こう

した連携が単発のイベントで終わることを避け、学習プログラムとして定着させる効果を持つことが期待される。

このように、本事例は自治体設置の観光施設がML連携の枠組みに参画することで、町外での普及活動を通じて博物館機能を拡充させた取り組みと評価できる。

3-2. 町外展開による観光・教育普及の相乗効果

来場者アンケートでは、図書館展示を契機としてジオミュージアムへの来館意向が高まったことが示され、町外で展開する展示が観光誘客へ波及し得ることを示唆した。同時に、自治体境界に依存しない学習圏の形成が進み、箱根火山への理解や災害に対する防災リテラシーの向上といった教育効果も見込めた。

観光施設としての第一義は観光戦略にあり、本事例もその方針に沿って進められている。他方で、教育普及を成果指標に含めた運用を重ねる中で、前項に述べた博物館機能の強化が進んだ。観光戦略に資する事業を展開する過程で博物館機能を拡充させる本件のような事例の蓄積は、博物館の観光的利活用を具体化する施策を検討する際の手がかりになるといえる。

今後の課題として、学校側の学習評価(事前・事後課題)、図書貸出の変化、来館割合の経年変化等を継続的に収集・分析し、観光・教育普及の両面から効果検証を行うことが挙げられる。

〈参考文献〉

- 井上 由佳・清田 かえで・野崎 彩乃・山崎 陽斗 (2025) 学校図書館と連携した博物館見学の事前授業(湘南学園小学校3年生に向けた実践). Museum study: 明治大学学芸員養成課程紀要, 36, 7-21.
- 金 容愛 (2009) 図書館・文書館・博物館における連携の動向. 文化情報学, 16 (1), 33-43.
- 佐藤 友美 (2020) 「博物館と観光」をめぐる議論と課題—文化芸術立国, 観光立国が目指される中で. 社会教育研究年報, 34, 107-117.
- 菅根 幸裕 (2023) 博物館法改正を考える—「文化観光」を中心に. 全博協研究紀要, 25, 1-13.